



書評

[評者]

古市 賢吾

金沢医科大学医学部腎臓内科学

水・電解質・酸塩基平衡 クイックリファレンス

Fluid, Electrolyte and Acid-Base Disorders: Clinical Evaluation and Management, 2nd Edition

Alluru S. Reddi, MD, PhD

深川 雅史・安田 隆 監訳

●A5変 頁540 2022年3月

定価:6,930円(本体6,300円+税10%)

[ISBN978-4-8157-3045-1] MEDSi刊



本書は、臨床で遭遇する頻度の高い病態に対して、基本的な生理学的解説から具体的な臨床像の解説が続く構成になっており、単にマニュアル的な対応ではなく、検査や処置の“なぜ”が自然に身につく流れになっています。体液、電解質、酸塩基平衡異常は、すべての臨床医が日常臨床の中で頻繁に遭遇する病態です。しかし、その病態を正確に理解し、診断・治療を行うことは容易ではありません。診断と病態のしっかりとした理解は医学・医療の基本ですが、腎臓を中心とした体液、電解質、酸塩基平衡の病態生理は複雑で、理解が難しいことも少なくありません。

本書は、臨床的に遭遇することの多い主要な疾患や病態について、基本的な生理学の記載、鑑別すべき疾患の要点、診断への道筋や臨床所見の評価方法、重症度の評価そして治療法について簡潔に述べられています。また、実践的な章末の症例問題は、設問形式をとることで考えの流れや知識の整理が行えるように工夫されています。解説を熟読し、問題を繰り返すことにより、自然に個々の疾患の病態と症例へのアプローチの手法を系統的に学ぶことも可能になっています。

学生や研修医の方は勿論のこと、電解質

について再度確認したいと思われる先生方にも基礎から応用まで幅広く確認できる形になっています。実践的な症例に対する問題と詳細な解説も多く示されており、学生や研修医の先生方にとっても多くの臨床経験を疑似体験できます。また、学生さんなどの初学の方々のために、本書を読み解くために必要な臨床検査値の基準値表も見返しに掲載されており、まさに“痒いところに手が届く”様な気配りがされております。これにより、提示された症例の検討に少しでも多くの時間を使ってもらえるものと考えます。

項目ごとにまとめて学ぶこともよいですが、わかりやすい図や一目でわかる整理された表も多数あり、診断や治療に困った症例に遭遇した際の手引きとしても有用と思います。本書タイトルどおり“クイックリファレンス”としても、とても使いやすいと思います。遺伝性疾患を含め鑑別すべき疾患が網羅的に記載されており、比較的診断することの稀な疾患も鑑別としてあげられるようになっています。診断に困った際にも活躍すると思います。

本書は、体液、電解質、酸塩基平衡異常の理解と、実際の診療における参照資料の両面から優れた書籍だと思います。